

---

# 帰らない人 瑠璃偏

黴菌

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

帰らない人 瑞璃偏

### 【ISBN】

N5220A

### 【作者名】

徽菌

### 【あらすじ】

あの時あなたがいなきや私の今はなかつたよ……。隆がいてヒロがいて私がいて……。あの時の思い出は笑顔だった。

## 第一話・出会い（前書き）

帰らない人の瑠璃偏です。

初めての方は先にジャンルその他の 帰らない人を をご覧下さい。

切ないです。

どひねじゅうくつ（ 、 、 ）

## 第一話・出会い

私は木村 瑠璃。

なんとか頑張って合格した片岡高校に今日から行きます。

友達できるかなあ？？

私は大学に行つてもずっと俯いてた。

友達は欲しいの人に接する事が苦手だった。

「お前、名前なんて言うん？」

驚いた。

誰かに話しかけられたのは久しぶりだったから…。

その人は正直言つてす"く格好よかつた。

だから余計に戸惑つた。

「はつ…えつ…と…。」

言葉に詰まつた。

その時だつた。

「隆い（汗）いきなりお前呼ばわりはないだろー（笑）この子困つ  
てんじやん（笑）」

友達らしき人物が近付いてきた。

「そつかそつか（笑）んぢや俺の方から名乗るな。俺は華家田隆一。隆つて呼んでな。」（笑）ちは大谷弘つ。ヒロつて呼んだつて（笑）。

「勝手に決めんなーー（笑）」

私はつい笑ってしまった。

「んでそつちは？？」

「私は…木村瑠璃…。」

「はあ～かわええ名前やん（笑）んぢや瑠璃次の授業場所行こかあ（笑）。」

「あつ…うん…。」

ありがとう。.

それから私と隆とヒロははいつも一緒にいた。

## 第2話・不自然

日増しに私達は仲良くなつていつた。

私にもたくさん友達ができてきた。

でもいつも一緒にいたのは必ず隆とヒロ。

気がつけば私は隆に恋をしていた。

隆は気付いてるの??

隆が他の女人の人と喋つてゐる時はすゞしく苦しかった。

でもやう思つてたら隆はいつも話しかけてくれた。

その時が一番安心したよ。

でもある日…隆とヒロは別々に学校に来ていた。

私達3人はもうダメになっちゃうのかなあつて怖かった。

帰る時もヒロは先に帰つていた。

「ぬ～り～ちゃん！」

振り返ると隆がいた。

「どうしたの？？私もひ歸るナビ……。」

「送つてくよ。」

隆は笑つてたけど……どこか真剣だつた。

私は夕日に紛れて赤面になつていた。

こんな事は一度もなかつた。

家が反対方向だつたし。

隆はいつもヒロと帰つてたから。

私は…ヒロに嫉妬していたのかもしれない。

「いいけど…隆大丈夫なの？？」

本当は絶対一緒に帰りたかつたけどヒロが気にかかつたから聞いてみた。

「ええやんたまにはーー！行こうぜー。」

隆は手を差し出した。

私は恥ずかしかつたけど手を取つた。

いつもはよく喋る隆が…珍しくおとなしかった。

私は何か喋ろうと思つて口を開いたけど…すぐに閉じた。

隆の顔が…何故か切なかつたから…。

そうしてゐ内に家の前まで着いてしまつた。

「じゃあな。」

「うん…バイバイ…。また明日…。」

私がそりこりと…。

「明日…か…。明日な。」

隆は…そうこつて…夕日に溶けていつた。

### 第3話・夜の道

元気のない隆が心配だったけど隆はすぐに帰つていった。

私はその後テレビを見てお風呂に入つて…寝入りと思つた。

いつもなりすぐ起つておひるのに今日は何故か眠くない。

夜中の3時頃、私は無意識にコンビニのおきつが食べたくなつた。

それは珍しい事ではない。

私はコンビニのおきつが大好きだから。

迷わず家を出てそのままコンビニへ向つた。

風の冷たい

真つ暗な夜だった。

私はコンビニで普通におこぎりを買い、密かに鼻歌を歌いながら真つ暗な夜少ない星の下を歩いていた。

「瑠璃いーーーうおーーー！」

その声に振り向く。

隆のいきなりの登場にたじろいだ。

「隆？こんな遅くに何やつてんの？？」

「それコッちのセリフやーーー（笑）」

良かった… わりと元気で。

そんな感じで私達は一緒に歩いた。

「なあ瑠璃？俺がおらじょなつたらどうなじまする？？」

おかしな質問だ。

「何それえ？（笑）隆は不老不死みたいなイメージだからわからんないよ（笑）。」

「俺つて何者なんだよ！？（笑）ねえーまぢでビうする？」

なんか今日の隆しつこいな（笑）

「んー。しゃーない隆のタメにオイオイ泣いたげるよ（笑）そ、うだ  
なーお墓参り行く時これ持つてくれ（笑）」

やつ四つて私はおにぎりの入ったコンビニの袋を掲げる。

「鮭だかんな！絶対鮭か梅な！！（笑）」

注文多いなー。（笑）

「はいはー。わかつてるってえ（笑）」

そう言つと隆が立ち止まつた。

「隆がいたの？」

「瑠璃……好きだよ。」

急な告白に動搖した。

「うひうひあーからかうなー（笑）」

馬鹿……何言つてんだる……。

隆の顔みりや本気な事位わかんじやん。

「嘘じやねえよ。それが俺の全部の気持ち。わからんでもええ。無理に受け止めんでもええ。その事を知ってくれるだけでいいんや。最後に……な。」

隆の言ひ意味がわからなかつた。

「へ？最後つて？？」

その時…巨大なトラックが一いち方に迫ってきた。

私は反応できない。

数秒後、けたたましい音がすぐ側で聞こえた。

私はトラックより少し離れた場所へ倒れている。

痛みはなかった。

だって…

だって…

ひかれたのは隆だもん。

私は声もでなかつた。

ただ涙を流しながら…トライックの近くに血だらけで倒れている隆に近付く。

「どうして?…どうして?…」

そう呟きながら…。

私も怪我をしていた。

膝と両腕から血が垂れていた。

でも隆に比べれば「んなものかすり傷にすきない。

「隆……？た……かし？」

隆の側まで行つて私は崩れるよつに膝をついた。

「泣く……な……や。いつかが……苦しくなる……やん……か。」

隆は口から血を吐きながら苦しそうに倒れた。

「幸せな女になるんやぞ。やつとおた会えるから、笑つて待つといてや。」

隆はやうこつてうつすうとひらいていた瞳を閉じた。

「隆、私も好きだよ。隆がいなきや笑えないよ？、幸せになれないよ？」

隆からの応答はない。

「聞こえないの…？隆？ずっとずっと好きだったんだよ？なんで…？」

せつかく想いが繋がったのに…隆には届かなかつた。

私の初めての告白は  
隆に聞こえなかつた。

私は無意識にヒロを呼んでいた。

ヒロが私のよつて運ばれていく隆にすがつづくよつて話しかけてい  
る。

私は…隆を思い出す度泣いて、隆が笑つて待てと言つたのを思す度作り笑いをした。

あの時の傷は私の心にあり続けるんだろう…。

背負つしかないんだね。

## 第5話…5年後の今

あれから…五年程たつた。

私はあの事件の一年後にヒロと結婚した。

あの頃…隆意外には考えられなかつたのに…。

隆が生きていれば…今じろ私と隆は結婚していただろう…。

あの日私がコンビニに行かなければ隆は生きていただろう…。

隆が昔…私にくれたコンビニの鮭入りのおにぎりが大好きだつた。

あの日はコンビニのおさしが食べたかったんじゃなくて…隆を思いだしたかったためなんだろうか…。

私は今病院のベッドにいる。

腕には昨日生まれた私とヒロの野の子がいる。

親指をくわえて眠っている。

名前はまだついていない。

「ねえヒロ。この子の名前…何にする…?」

今まで何度もこの質問をしたがヒロはいつも答えてくれない。

「 いれ… 読んでくれ…。」

ヒロは珍しく真剣にコトコトになつた手紙を差し出してきた。

「 えつでもいれ… ヒロ宛つて書いてあるよ…えつと… 誰から…。」

『 華家田隆より 』

その文字が目にに入った瞬間私に言葉に表せないような複雑な感情がおしよせた。

黙つて内容を読んだ。

手紙は隆で溢れていた。

全部わかつた…。

「この子の名前…ヒロ…考えてるんだしょ？～～命名して。」

私は泣いていた。でも笑っていた。あの事件から…初めての正直な笑顔だった。

「隆…大谷隆だ。おせえぞ…おかえり…。」

ヒロは優しい顔で私の腕の中で眠っている隆に言った。

また…会えたね…。

隆…私…笑つて迎えてあげれたよね??

あなたに会えて良かつた…。

おかえり…隆。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5220a/>

---

帰らない人 瑠璃偏

2011年1月13日08時17分発行